

# わたしのお姉ちゃん

新見市立新見南小学校

三年 名 越 藍 理

わたしは三姉弟です。わたしのお姉ちゃんは、おしやれ  
でせが高く、やさしいけれど、みんなと少しちがうとくせ  
いをもっています。そんなお姉ちゃんを、わたしは小学二  
年生の中まで好きになれませんでした。何が好きになれ  
なかったかというと、じゅん番を守ってくれない、テンショ  
ンが高くなってしまうとあばれる、気分で聞いていないふ  
りをする、同じ事を何回も聞いてくる、わたしのじこしよ  
うかいを勝手にわたしの知らない人にする事です。なの  
で、わたしのお友だちにお姉ちゃんを見られたり、会った  
りするのがいやでした。

そんな時お母さんが、

「お姉ちゃんのうん動会を一しよに見にいこう。」

と言いました。お姉ちゃんが行っている学校はわたしが  
通っている学校とちがいます。山の上にあつて月曜日から  
金曜日まできしゆくしやという所にとまっています。わた  
しが二年生の時はじめてうん動会を見にいきました。いろ  
んな人がいておどろきました。その中でお姉ちゃんは、先  
生がだれもつかずに一人で走ったりおどったりきょうぎを

していました。家で見えるお姉ちゃんとはぜんぜんちがつて、  
かつこいいと思いました。帰ってからお姉ちゃんに、

「すごかつこよかつたよ。」

と伝えました。するとお姉ちゃんは、

「きてくれてありがとう。うれしかった。」

と言つてギューとしてくれました。わたしは、お姉ちゃん  
がギューとしてくれたことがとてもうれしかったです。

お母さんにいい事を聞きました。それは、相手のいやな  
所をよい事に言いかえてみるというものでした。お姉ちゃ  
んのいやな所をお母さんと一しよによい事に言いかえてみ  
ると自分をしっかりもっている、集中力がある、こうき心  
がある、相手をととても信用していると言いかえる事ができ  
ました。お姉ちゃんがわたしのじこしようかいをするのも、  
自まんの妹だからという事もわかりました。わたしは、お  
姉ちゃんの事が大好きになりました。

今では、お姉ちゃんがスムーズにお話ができずに相手に  
伝わらない時は、わたしが何とお姉ちゃんが言いたいのか  
相手に教えてあげたり、べん強で分からない所や読めない  
所があれば、わたしが教えたり、読んだりしています。わ  
たしは、お姉ちゃんが、

「ありがとう。」

とえ顔で言ってくれる事がとてもうれしいです。

これからもお姉ちゃんがこまっていたら、一番に助けて  
あげたいです。

「これからよろしくね。お姉ちゃん。」